

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「誠実～まごころをこめて～」を基にホームの全職員が「喜んでもらえるケア・普通の家庭のように」という具体的なイメージを持った理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が理念をよく理解し共有できている。管理者は職員の悩みを聞き取り、日々のケアの中で理念に沿った助言・指導がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の一員として交流している。特に近隣の声かけには気をつけており、散歩の途中に世間話が交わされたり、立ち寄られたり日常生活の中での交流がなされている。また、地域の中核として団地全体の総合避難訓練を実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で話し合い自己評価を作成している。評価の意義を理解しており評価後は話し合い改善に向けて取り組んでいる。		

宮崎県串間市 グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活発な意見交換があり出された意見・要望については改善に向けて取り組む姿勢がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との連携ができている。ただ、市との連絡等は法人母体施設の事務局が担うことが多くなっている。		ホームの独自性も考慮し、単独で市担当者と連携を持てる関係になる取り組みも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の個々の家族あてに毎月「なごみ便り」で金銭等の報告、利用者の暮らしぶりを知らせている。また、来訪時には声かけして生活の様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書等で知らせ、意見箱を設置している。意見・苦情については職員で話し合い、場合によっては家族等との話し合いの機会を持つなど改善に向けて法人全体で取り組む体制ができている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの意義を理解し、異動は最小限度になっている。代わる場合は、利用者への影響を考えスキップから始め安心してもらえるケアになるように努めている。家族へは「なごみ便り」で知らせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加している。その後は会議等で報告し共有している。法人で、人事考課制度、目標管理制度を用いた職員の育成をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や持ち回りのブロック協議会に積極的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居ができる体制がある。また、入院中の希望者については、介護支援専門員と同伴で病院への訪問を実施している。		新たな利用希望者が安心して納得したサービス開始になるよう入居前に家庭訪問等で利用者や家族となじみの関係をつくる等の取り組みをされることを望みたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者の昔話や昔の知恵などに耳を傾け和やかな生活をしている。昔の生活の知恵を利用者に習いながら、一緒に体験する機会を設けるなど支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状況や意向を寄り添うケアの中で把握し、一人ひとりに合わせた支援がされている。職員間でその状況が共有できており本人本位の取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスの場で職員で意見を出し合い、本人、家族の意向を把握した上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月見直しを行うとともに、随時カンファレンスや状況の把握をして見直しを実施している。また、その度に本人及び家族の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院介助等柔軟に対応している。年一回の総合避難訓練は団地全体での取り組みを計画する等地域の中核としての役割も担いつつある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の意向に沿ったかかりつけ医と連携がとれている。協力医が月2回往診に来ており、連携ができています。現在看取りを行っており、ホーム看護師が協力医との連携のもと実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応にかかる指針」「看取りに関する指針」があり、入居の際に説明し利用者、家族の同意を得ている。また、その希望に沿った看取りの体制があり、法人施設の協力体制もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや立場を大切にした目立たない、さりげない言葉かけやケアができています。記録等も個人情報を配慮した適切な取り扱いがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせた支援がされている。		

宮崎県串間市 グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	終末期の人、食事制限のある人等がいる中で臨機応変にそれぞれが食事を楽しめる取り組みがされている。利用者も買い物、配膳、片づけ等手伝いながら職員も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、毎日夕方入浴できる体制になっている。また、入浴できない利用者へは清拭等適切な対応がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や料理、洗濯物たたみなど一人ひとりの趣味、経験、知恵が発揮できる場面づくりがされている。また、さりげなく編み物セットをだんらんの場に置いたりして楽しみ事を引き出す取り組みがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーへの買い物や散歩等の支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居間、居室等鍵は掛けられていない。目配り気配りで対応しており、外へ出られた時は先回りしてさりげなく声かけするなど適切な対応がされている。また、近隣の人々の見守りもある。		

宮崎県串間市 グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的さまざまなことを想定した避難訓練を実施している。また、総合避難訓練は団地全体で実施することになっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれたメニューになっている。医師の指導も受けながら一人ひとりに応じた食事を提供している。食事量、水分量については記録し十分な栄養が確保できる体制がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の住宅であったため、広いとは言えないが、暖かな場所にソファが置かれ、それぞれの膝掛けがある。また、食事の際は丸いちゃぶ台を置くなど懐かしい風景になり和ませる心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが使い慣れたものを持ち込んだり、家族の写真が飾られており安心して生活できる工夫がされている。		

※  は、重点項目。